

■ はじめに

委員長 津川 文江

皆さん こんにちは お元気ですか？
委員長の津川です。委員長になってから1年半が過ぎました。わからないことばかりで不安でした。でも 周りの方々のご協力ご指導のもとに事業を進めることがきました。

有難うございます。これからも よろしく願います。

私の家の庭に 2.5mぐらいの金木犀の木があります。その根元に大きな葉っぱと大きな茎が育ちました。葉っぱが密集していて近づくことができませんでした。それが 金木犀の木をぐるっと巻いて 木の上の方と根元の付近で 花が咲き 7月終わりには、実がなりました。段々実は大きくなりました。かぼちゃみたいと思いつつ 楽しみにしていましたら やっぱりかぼちゃでした。大きなかぼちゃができました。金木犀の木は かぼちゃの木に変身したのです。去年 かぼちゃを料理した時に 種を取って生ゴミとして 庭の処理器の中に入れたことを思い出しました。そして、それを肥料として使いました。その中に 種があったみたいです。

ちょっとしたことですが、気持ちを豊かにしてくれました。

さあ、木の上のかぼちゃは いつが食べごろでしょう。今 ゴミにしている種を どこかに蒔いてみましょう。楽しみがひとつ増えますよ

☆：☆・。*：。° ☆。：*・：☆：☆・。*：。° : ☆・。

■ 今回の記事

- はじめに
- 今後の予定・お知らせ
- 見学会報告
- 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
平成18年度定例会議(前期静岡会議)報告
- 全国女性建築士連絡協議会報告
- ほっと・コーヒーブレイク
- 編集後記



☆：☆・。*：。° ☆。：*・：☆：☆・。*：。° : ☆・。

■ 今後の予定・お知らせ

- ◆ 研修会「照明セミナーとエコキュート」
日時：8月26日(土) 10:00~16:00
場所：ナショナルリビングショールーム岐阜
- ◆ 建築文化講演会「講師 竹原義二」
日時：9月9日(土)
場所：県民文化ホール未来会館
- ◆ 第49回建築士会全国大会 栃木大会
日時：10月20・21日(金・土)
場所：栃木県宇都宮市
- ◆ 気楽にらくだ会
日時：12月2日(土)



■ セントレアバリアフリーツアーと

INAX 見学アンケートのまとめ

平成18年7月
岐阜県建築士会女性委員会



① 集合場所・時間について

今回は車の方と電車の方を配慮して2箇所になりました。

- 良かったと思います。遠方の方も参加できたようですし。
- 車と電車両方の対応が有り良かったと思います。
- 良かったと思います。遠くからもみえていたのですね。
- 流石、女性の感性というか、心憎い配慮には感服しました。
- 無料駐車場があつてよかつたと思う。
- よかつたと思う

② 移動方法について

バス: 28人定員25人乗車

今回は電車でのアクセスを計画していましたがセントレアバリアフリーツアーをより詳細に見学できるバスツアーに変更したためにバスでの移動となりました。

- 車で良かったですが、時間の制約があるのがネックですね。
- 人数集めに苦労しました。
- 電車でワイワイ言いながらみんな移動するのも楽しいですが、人数が多くなると結構まとめるのが大変になるので、バスの移動の方が楽かと思つた。
- 車椅子で参加できたのはバスでの移動だったからです。電車の移動は乗り継ぎに時間がかかってついていけなかつたと思います。今回は見るところがもりだくさんで楽しく行つて来れました。
- 電車より、機動的で効率性からも、安心感というか快適性(電車だったならどこで乗り換え? 次は? はぐれたら...)にも優れて、車いす利用者の方にもよかつたと思います。
- 団体ならばバスが良いと思います。
- よかつた。値段も安く設定できていると思つた。

③ 高速道路のトイレについて

トイレ休憩が短く混雑していました。女性委員会ではトイレにこだわりをもって活動してきました。御意見お聞かせ下さい

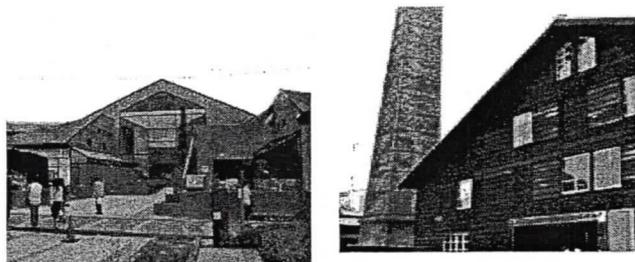
- あまりに混んでいたの、使用&調査を断念してしまいました
- 丁度混んでいる時に出くわしたのか、常にあのような状態のパーキングなのか。

- 人は並んでいるけれども、ブースの数はあつたので待ち時間は思ったよりも短かつたです。洋式と和式の区別が外からではわからず、あるご婦人は自分の番になってブースに行つても使用することが出来ず、次の人に譲っていました。15分の休憩で良かったと思います。
- ちょっと狭い感じがしましたが、人工肛門の方の便器が付いていて温水も出るようになっていました。
- 「どのトイレも女性用を男性用の少なくとも1.5倍にするべき」
1人の所要時間が女性の方が3倍以上(?)かかるそうです。私も若い時に欧米を旅した時には、空港などでは女性用のスペースが多かつたことを記憶しています。
- 使わなかつたのでわかりません。
- 女性のトイレの数を増やす働きかけは? 他的高速道路の休憩所でも見られる光景です。
- 男女共用トイレがあつてもよいかも。そうすればすくかも。
- ペーパーの交換の仕方がわからない子どもがトイレを使えずに困っていました。工夫する力がなくなっているのかと思つた。
- 高速道路のトイレとしてはがっかりでした。

④ INAX 見学について

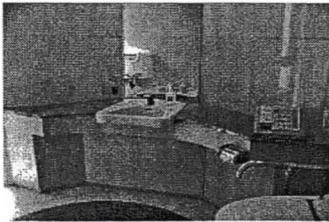
時間・内容など御意見お聞かせ下さい。

- INAXの展示は興味深かつたです。もう少し時間があつても良かったですね。
- 時間がもう少しあつたらと思つた。建物も素敵でしたが、タイルを見なおしました。
- 前々から行きたかつたので非常に参考になりました。登り窯や素焼きの常滑焼きのあれこれ、イスラム圏・北アフリカ・ペイン・イギリスのタイルは昔、私が旅して眼にしたことのあるモノで懐かしくて、感激しました。
- 面白かつた。
- 費用がかかつても良いので昼食も建築的に何か感じるところで食べたかつた。INAXのレストランも入つてみたかつた。
- 充分であつた。

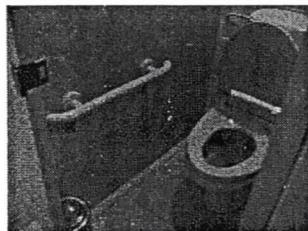


⑤INAXのトイレは使われましたか？御意見お聞かせ下さい。

- 多目的トイレは広くて立派でしたね。でもあそこまでスペースがあるなら、ベビーベッドでなく折り畳み式の大型ベッドが入っていると良かったかもしれません。おむつ替えもベビーベッドより大型ベッドの方がうんとやりやすいですし、幼児の紙パンツ替えはベビーベッドではできませんから。ただ、美術館ということもあって、幼児連れや重度障害の方はターゲットにしていないのかもしれないですね。女子トイレは至ってふつうでした。
- 1階の一般トイレの扉がすごく重かった。通路とブースが狭いように感じました。多目的トイレはすごく広くて、立派だなあと思いました。
- 広くてゴージャスな感じでしたが、すべりやすく手すりが短くて怖いと言っていました。
- 男性の方 タイルばかりと思っていたが各所に石(人造石)が使われていたのに驚くやら安心するやら。
- 男性の方 タイルの割付がきれいにできていなかったのが残念でした。



多目的トイレ



女子トイレ

⑥まるふくの昼食について
2階でしたが車いすの方も業務用のリフトと一緒に食事をとることができました。みそカツ定食 1100円でした。お腹はふくれたでしょうか？

- 私は十分でした。男性は物足りなかったかもですね。
- 量は丁度良かったです。男性には少なかったかもしれませんが。

- お腹はふくれました
- 「とっても足らん!!!」「あれで、1100円はぼったくりでしょ!」「ビールを飲みたかった!!!!!!」
- よかった。
- あのタイプのお店としては十分だと思った。

⑦昼食後のプランについて
散策と陶芸に分かれました。それぞれ気が付いた事があれば御意見お聞かせ下さい。

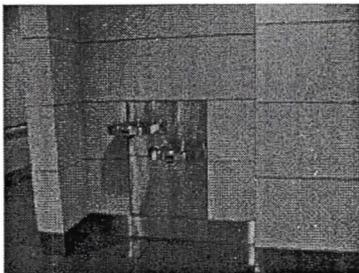
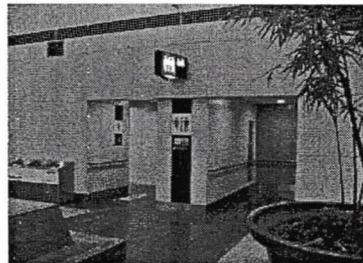
- 陶芸は楽しかったですよ。時間があれば手びねりではなく、ろくろを回してやりたかったですが。
- 選ぶことが出来るということは良いことだと思います。
- 散策 登り下りが多く大変でしたが、一日かけてゆっくりと工房を見ながら散策してもいい所でした。
- 散策はとても良かったです。
- 大変よかったです。
- 天気が丁度よかったです。
- 思いのほか雰囲気も良く見ごたえのある散策路でよかったです。感激した。
- 坂道も多く車椅子介助の大変さも痛感できてよかったです。



⑧セントレアバリアフリーツアー見学について 御意見お聞かせ下さい。

- ちょっと一般向きでしたね。もう少し専門的な話が聞きたいと思ったのはゼイタクだったでしょうか。折しも日経アーキでセントレアのユニバーサルデザインについて特集が組まれた号が出た直後でしたし、TOTOのセミナーの事例紹介などで、予習ができていたのは良かったです。
- トイレやサインについては、もう少し時間をかけてじっくりと調査をする必要もあるかな、と思います。

- 無線を使用したの説明は良く聞こえたので良かったのですが、内容としては物足りないものでした。一般の見学者にとってはあんなものなのだろうなあとは思いますが。前半の内容が濃すぎて、疲れてしまい、セントレアでは個人的にしっかりチェックすることが出来ませんでした。
- 環境に配慮したところを説明してもらいよかったです。エレベーター、トイレ使いやすく、利用者の事を考えてあると思いました。
- 案内嬢の「棒読み&素人向け」の解説にはがっかり。もっとも、期待する方がおかしいのかも。
- よかった。
- たいしたことがなくちょっとがっかり



■ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会 平成18年度定例会議(前期静岡会議)報告

日 時 : 平成 18 年 6 月 24 日(土)
開催場所 : グランシップ
〒422-8005 静岡県静岡市池田 79-4
電話 054-203-5710

建築士会東海北陸ブロック大会 女性建築士協議会
平成 18 年度前期ブロック(静岡)会議報告
津川 文江

6月24日(土)晴れ
今回 静岡県には 女性委員会がありませんが、静岡県建築士会青年部の配慮にて静岡県静岡市 グランシップにて、開催された女性建築士協議会に参加いたしました。協議会では 各県の今年度の活動報告、及び活動予定を報告いたしました。
12:30 受付
13:00 開会式(青年共)
13:30 女性建築士協議会
後期ブロック大会は 三重県四日市市で 18年 3月3日発表の愛知県のワークショップは、13:30より17:00までとなるそうです。
今回も、協議会終了後、途中から青年と合流してワークショップに参加しました。
18年3月3日 後期ブロック大会 名古屋から30分ぐらいの四日市市で行われます。
他の方々の参加を希望いたします。



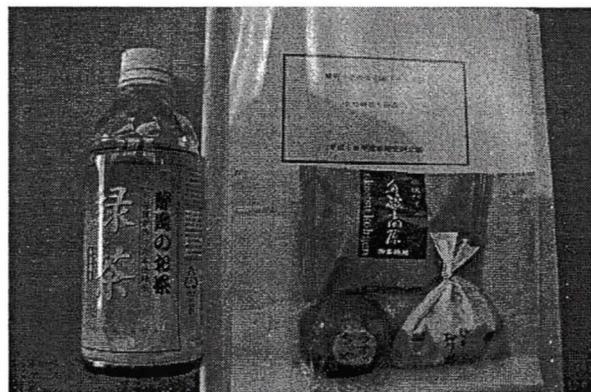
ブロック事業委員会報告 長瀬 八州余 平成 18 年度後期

日 時 : 平成 19 年 3 月 3 日(土)4日(日)
開催場所 : 「じばさん三重」 四日市市
ブロック事業発表について
平成 19 年 3 月 3 日(土) 13:30~17:00
発表県 : 愛知県
『仮称)コミュニティーと環境を考慮した外部空間作り』
のワークショップを予定
三重県と愛知県と連絡を取りながら中味を協議していく。
平成 19 年度前期
開催場所 : 岐阜県 (会場等はまだ確定していません)
平成 19 年度後期
開催場所 : 富山県
ブロック事業発表 : 福井県(発表内容はこれから検討)

ブロック会議静岡にて



◆◆◆◆女性建築士協議会の会議風景◆◆◆◆



福井県が会議の担当だったので、
福井県の方がお菓子を用意されていました。
ごちそうさまでした。



◆◆◆◆開会式 青年と一緒に建築士会
東海北陸ブロック会の開会式を行います。◆◆◆◆



会場のグランシップはトイレ等の
サインがこういう物です。少しわかり
づらかったです。



◆◆◆◆ 懇親会の様子 ◆◆◆◆



女子トイレのサインです。普通のサインも
併用されています。

■ 全国女性建築士連絡協議会報告

平成 18 年全国女性建築士連絡協議会女性部会長
(委員長) 会議報告

日 時 平成 18 年 7 月 21 日 (金)
13:30~14:30

場 所 物トホール
報告事項 第 49 回建築士会全国大会栃木大会について
栃木県建築士会女性委員会
平成 18 年 10 月 20 日 (金)

10:00~15:00

テーマ 「安心・安全な住環境」

住宅の耐震相談や、身近な素材の紹介を通して、広く一般市民に女性建築士の活動をアピールするとともに建築士と市民との語らいの場をつくるそうです。

平成 19 年全国女性建築士連絡協議会予定案

日程 1 案 平成 19 年 7 月 13 日 (金)・7 月 14 日 (土)

2 案 平成 19 年 7 月 20 日 (金)・7 月 21 日 (土)

場所 青森県 青森市 又は 八戸市

分科会 報告内容

平成 18 年 7 月 22 日 (土)

東京の建築会館で 8 分科会に別れました。

E 分科会「歴史的建造物の保存と開発」 F 分科会「子供・住環境」など 50 名以上の参加した分科会もありました。

A 「住まいの安全」

※ 兵庫県の発表でリフォーム工事について、施工後の相談が多く、失敗しないリフォームのためのアドバイスの本を作成中である。

※ ユーザーもリフォーム前に相談する事が大切である。

B 「環境共生」

※ 栃木県の発表で自然を破壊せず共存していくという実例

地球規模で考える必要があるが、まず身近な衣食住から考える必要がある

植栽を上手に使う方法を考えることも大事である。

C 「健康住宅」

※ 愛知県の発表で身体の健康、心の健康、住まいの健康、この 3 つのバランスが健康住宅には大切である。

※ バリアフリーは本当に必要かという疑問がある。

※ いろいろな材料の知識を持ち、又 ユーザーとのコミュニケーションを持つことが大切である

D 「建築士制度と士会活動」

※ 専攻建築士制度は単位士会で対応が違っている

※ 自動更新制度が必要である

※ CPD は集めるのが目的でなく自分の履歴を作ることが目的である。

E 「歴史的建造物の保存と開発」

高知県の発表で海のギャラリー (林雅子設計) の解体案から再生保存になった実例で 「いつまでも親しまれる建物」「価値ある建物」を再生させ保存しなければならない。

※ 建物を建てた時から 補修のことを考える必要がある。

F 「子供・住環境」

福島県の発表で建築士だけでなく、地域の商店街の街づくり活動、街づくり事業等とかかわりあい、横の広がり子供達が興味を持つ企画として子供達と一緒に活動している。

G 「高齢社会」

神奈川県発表で バリアフリー住まい街づくりを目指して、男性委員も参加して高齢者問題に取り組んでいる。ケアマネジャー、業者中心で建築士の出番が少ないという報告もあった。

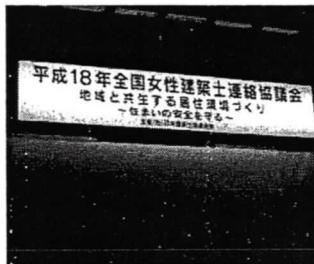
H 「集まって住む」

東京の発表でさまざまな集合住宅の再生についての発表でした。集まって住むことには、色々な形がありよいコミュニティーがあれば、元気で暮らせることとなり、結果的に集まって住むということになるそうだ。

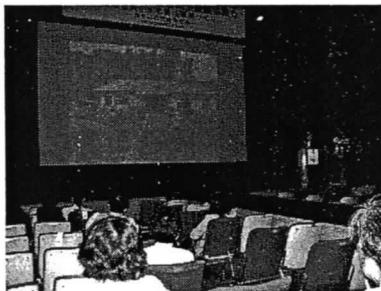
平成 18 年全国女性建築士連絡協議会
「地域と共生する居住環境づくり」～住まいの安全を守る～
下川 滝美

平成 18 年 7 月 21 日(金)
「活動の報告」14:45～17:00

活動の報告のテーマは子どもと住まいをキーワードとした発表でした。



①北海道士会は「子どもをはぐくむ住まいづくり」冊子「子どもをはぐくむ住まいづくり」を平成 15 年～17 年度にかけて編集作業をして、平成 18 年度に発行しました。
内容は 4 つのテーマからなりたち委員の経験を基に書かれている部分もあります。
「子どもが生き生き暮せる住まいを一緒に考えてみませんか？」というセミナーも企画されており、これからの子育て支援の最先端に行く活動だと思いました。



②福島建築士会 ふくしまてくてくお宝探検隊
子ども達と実際に歩いて体験することで自分達の住む町の歴史や良さ商業の仕組みを楽しく学べる探索マップを作成する活動の紹介でした。



③千葉建築士会 建築と子供たちワークショップ“街に似合うベンチを作ろう”
この活動はとても大きな活動でベンチのよさよりも子供からおやじまで巻き込んだ活動であり何年も続いているところに感心をしました。



④神奈川県建築士会 子ども住まいワークショップ
子どもたちに住まいに関するワークショップを出前講座としてすることで建築を知ってもらう機会を設けていること。積極的に女性委員が外に出ていることに感心をしました。

いずれも子どもを巻き込んだ活動でした。
リーフレットを作り学校を回ったりセミナーを開いたり女性委員だからできることまた男性の方も参加してより活動が広がっていることが今回の活動の特色だったように感じました。

●平成 18 年 7 月 22 日(土)

◇分科会「高齢社会」

コメンテーターは神奈川県士会の男性の方でした。

神奈川県では福祉部会が女性委員会から離れ新たに設置された委員会で活動をはじめており男性委員もおられ高齢者問題に取り組んでおられました。

各県の士会としての取り組みや個人的な活動の発表もありとても参考になりました。高齢者問題を考えていくには他職種との連携は大切であり勉強会や研修なども必要だと思いました。今個人的に活動している勉強会(女性委員 3 人所属)もこれから発展させて継続していきたいと強く思いました。



◇分科会「子ども・住環境」

今年度の活動のテーマ。地域の商店や地域密着の活動であり子どもだけでなく高校生や三世代まで巻き込んだ活動と発展していることに今後も注目したい。

●最後に宮本委員長より平成 18 年全国女性建築士連絡協議会アピールの発表があり閉幕しました。



シンポジウム報告

河内 美代子

公開シンポジウムは構造計算偽装問題を受けて、初めての試みとして広く一般の方(男性建築士もちろん含めて)も会場に招き入れて開催された。そのためだろうが、金曜ということもありシンポの開催は5時半スタートで8時過ぎまでであった(おなががすいたよー)。

テーマは「住まいの安全を守る」

基調講演は国土交通省住宅局建築指導課課長補佐 村上慶裕氏による「構造計算書偽装問題と法令改正の趣旨」。氏は現在この問題を担当しており非常に忙しい中、仕事の合間を縫って駆けつけてくれたという感じであった。建築士制度がどうなるという参加者が一番感心のあるだろう部分に焦点を絞って話してくれた。

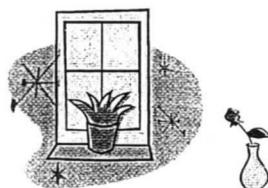
建築基準法・建築士法の改正については、第9回基本制度部会(7月20日開催)—建築士制度の抜本的な見直しについて—及び第8回基本制度部会(6月26日開催)—建築士制度の見直しの方向性について—の資料に基づき説明がいただけた。

専門分野別の建築士制度の導入については、

案1:一級建築士の業務独占領域を限定し、これに対応して既存一級建築士について公衆の受講、修了考査の実施により、必要な能力を有していることを確認した上で、新たな免許を付与する。新たな一級建築士の指示の下で、構造計算や構造設計図書の作成、設備機器の負荷計算や設備設計図書の作成を行い、設計図書に記名押印する専門資格を創設する。

案2:設計一式、構造設計、設備設計等の業務の区分に応じて、建築士事務所の登録を受けなければならないこととする。登録の区分に応じて、構造設計や設備設計に関して専門的な知識及び経験を有する建築士を配置しなければならないこととし、これらの建築士に、各専門分野の設計内容の確認を行わせることとする。…この2つの案について引き続き検討する必要があるとの話であり、構造・意匠の切り分けは難しいだろうとの見解だった。

また現在、一級建築士が約32万人、二級建築士が約60万人登録されているが、法により建物の安全性や質の確保を図っていくことは出来ても、人のレベルの確保(建築士のレベルアップ)をどうするかが課題であるとの話であった。

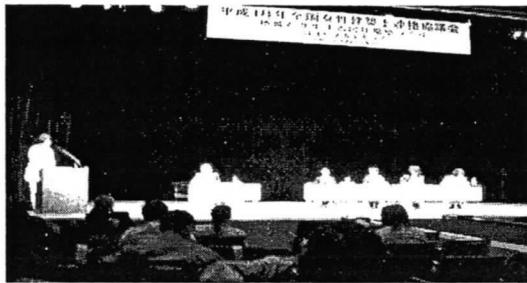


引き続き、6人の女性によるパネルディスカッションが行われた。

コーディネーターは前委員長の小谷部育子氏、パネリストはマンション建設のプロデュース・マーケティングを手がける(株)風の久保恭子氏、構造計算書偽装に関する緊急調査委員会委員で主婦連副会長の大河内美保氏(急遽欠席となり、文書での参加であった)。(株)竹中工務店現場監督の加藤万理氏、構造設計を手がける正木建築事務所代表の正木恵子氏、初代委員長で(株)計画工房主宰の村上美奈子氏



小谷部氏の、構造設計者には構造計算屋さんと構造設計家の2種類があるが、ミスということはあってもまさか偽装などということが行われていたとは信じられなかったという話で始まった。久保氏からはマンションの販売状況は好調だが、実質を担っている中小は苦戦しているという報告があった。そしてNPO日本建築家マニフェスト協会が物件をチェックしてお墨付き(証)を出す動きも始まったが、リクルートによるマンション購入者調査では(ただし2005年分)、日当たりのよさや広さ、間取りが相変わらず耐震性能やセキュリティ、性能評価付きなどより上位にあるという報告もなされた。大河内氏からは安全・安心について、専門家と一般消費者では考え方に大きなギャップがあるという指摘があった。専門家は安全に避難するまで建物が持たばいいと考えるが、消費者はそんなに簡単に家が壊れては困るのである。加藤氏からは消費者は管理と監理の違いもわかってないし建築の実態というものも理解していない。性能表示についても理解していないと感じるという話があった。正木氏からは阪神大震災を経験して(兵庫県在住)、命を守るべきものに命を奪われた(住まいは命を守るものはずなのにその下敷きになって亡くなられた方が多かった)という現実を見て、構造設計者が一番の基本である住宅にもっとかかわるべきと自らの反省を交えた話があった。今回の事件が構造に目を向けるチャンスとなり、既存不適格への対応にも目を向けられるようになってほしいとも話された。村上氏からは設計者の立場があまり理解されておらず、特に建売・マンションなどデベロッパーが介在するものはその傾向が顕著。建築におけるセカンドオピニオン制度の定着が望まれるし、中古住宅の評価システム(第三者機関による)もほしいという意見が述べられた。



シンポジウム風景

今日の結論として、住まいとはメンテナンスしながら上手に長く付き合っていくもの。エンドユーザーへはデメリット部分というかそういうメンテナンスなどが必要になる部分もきちんと伝えることが大切である。女性建築士はお金や利害に左右されにくい立場にいることが多いので、第三者として一般消費者にそれぞれの住まいの性能やメリットデメリットなどについても正しい知識を伝える役割を引き受けられるのではないかと。みんな、頑張ろうということであったと思う。



H分科会「集まって住む」

河内 美代子

集合住宅が仮住まいから終の住処になろうとしている中、「立替か再生か」をめぐる事例報告を東京士会から受けた。東京士会では築き上げたコミュニティの継続、保存も視野に入れた建物本体の価値再生、資源の長寿命化、資源循環型社会による地球環境への配慮などの視点が求められていると考え「集合住宅の再生—ひと・記憶・環境の魅力を探る—」と題した公開シンポジウムを開催し、集合住宅の再生について建物だけでなく、人の思いや時の流れが創りあげた環境も継続できる方策を参加者とともに考えたとの報告であった。

希薄化したコミュニティの再生、環境に配慮した再生、保存も視野に入れた再生の視点からの事例報告であったが、話としては建物の保存活的な色合いが濃かった。この分科会への参加者の誰一人集合住宅に住んでいないというのも皮肉な分科会であり、終の住処としてのマンションの老朽化による「立替か再生か」は今後増えるかもしれないが、東京以外ではまだ、事例も少なく「集まって住む」テ

ーマとしてはまだ、難しいと感じた。現実的には「一人暮らしや二人暮らしになった高齢者をサポートする住まいづくり・コミュニティづくりをどうするか」のほうが深刻な問題との認識で大半の参加者の気持ちが合ったところで話がいつもの集まって住むに戻され、各参加者からそれぞれの地域での取り組み報告が発表された。岐阜からは「なかよし村」の報告をしたところ、大きな関心が寄せられたくさんの質問を受けた。

集まって住むということは結局はコミュニティの問題である。いいコミュニティがあれば、それが結果として集まって住むことになっている。コミュニティというのはあえて創らなければいけないものというよりも良い関係が出来ていけばそこを大事にしていきたいもの。新潟県では助け合って生活しないと生きていけないという背景があり、おのずとコミュニティが形成されている。「地域の茶の間」と呼ぶ場所が出来ており、有難いという発表もあった。



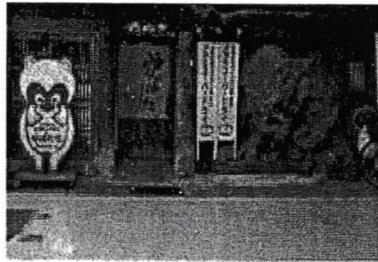
参加者が多く、ぎりぎりに入室した私はもう一列後ろの椅子席でした(T_T)。



☐ ほっとコーヒーブレイク

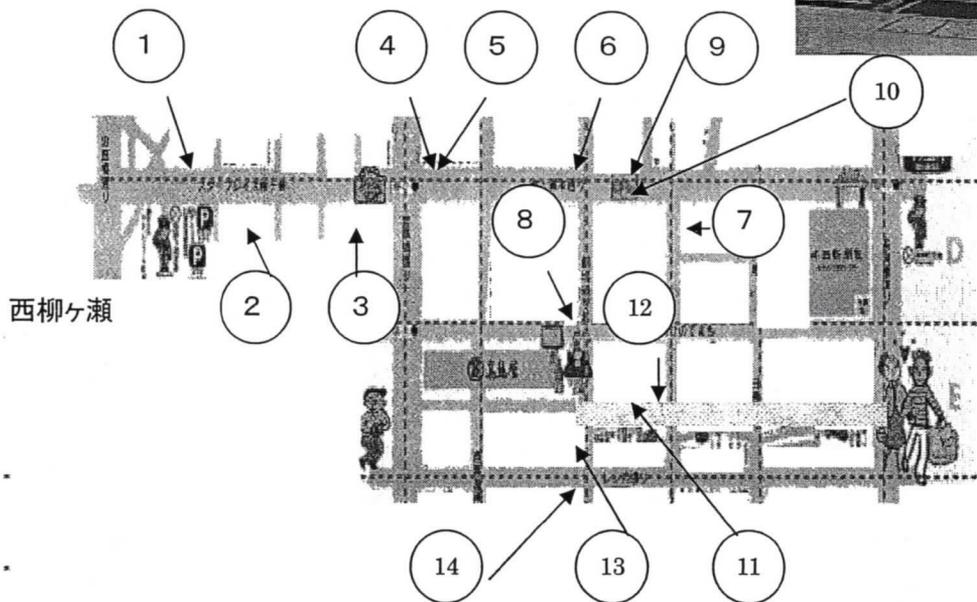
◆ 柳ヶ瀬バリアフリーマップ

① 居酒屋 手動車いすOK



下川 滝美

② 小料理屋 手動車いすOK



③ お寿司屋さん 手動車いすOK



④ シャレタ居酒屋・24時間営業カフェバー・手動車いすOK



⑤ 喫茶店・ペット(犬)歓迎



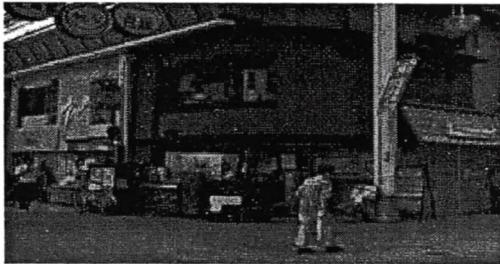
⑥居酒屋 手動車いす OK



⑦コスメチック・手動車いす OK



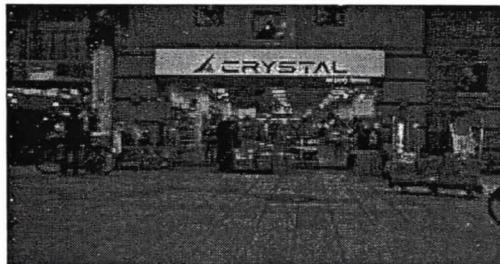
⑧昔からの、佃煮屋さん



⑨呉服屋 手動車いす



⑩ワンコイン (100円) ショップ



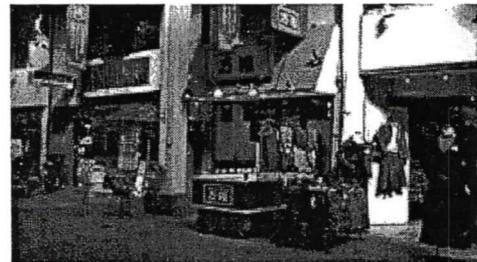
⑪かばん屋さんと宝石店



⑫手作り家具の店



⑬小さな豆腐屋さん



⑭小さな八百屋さん



柳ヶ瀬の町も、以前と変わりバリアフリー化のお店が増えて来た感じがします。

■ 編集後記

毎日暑い日が続いています。皆さん体調はいかがですか。なんとか予定通りらくだ第4号をお届けできました。柳ヶ瀬バリアフリーマップは昨年お寄せいただいていたものなので、若干お店が変わっているかもしれません。現場検証をなさった方は、ご意見をお寄せください。また、次号で全委員紹介をします。今回女性委員紹介コーナーはお休みします。

「ほっと・コーヒーブレイク」のコーナーは、お役立ち情報、新築建物紹介をはじめ検証報告何でも結構です。一言投稿(ペンネーム OK)もお待ちしています。

なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などは、下記へお寄せください。

編集委員

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

